

ことば

言は肉となって、

わたしたちの間に宿られた

ヨハネによる福音書 1 : 1 - 14



司祭 ヨハネ 井田 泉

2022年12月25日

降誕日

京都聖三一教会にて

「^{ことば}言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。」ヨハネ 1:14

これはクリスマスの出来事を一言であらわす言葉です。神の言葉は、肉体となって、人の生身の体となって、わたしたちの間に宿られました。

「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。」

これはヨハネ福音書独特の表現で、人を哲学的な思索へと誘う響きを持っています。けれども今日はそのようにはなく、この言葉から素朴な事実を受けとめて、感じてみたいのです。

神の子は、人の子となられた。神から来られた方は、今、赤ちゃんとして飼い葉桶の中に、あるいはマリアのふところにおられる。その赤ちゃんの体は体温があって温かい。「肉となった」のですから、その体は柔らかく温かいのです。それを見る人、その体に触れる人は、心が温かく優しくされるでしょう。

想像してみましよう。わたしたちは赤ちゃんのイエスさまを見つめる。その手、その頬に触れる。赤ちゃんのイエスさまを抱く。わたしのほうに変化が起こってきます。こわばっていたわたしの心も体も、柔らかく温かくなっていきます。「肉となった」とはそういうことです。

人の体をもって生涯を始められたイエスさまは、30年あまりの人生を、その体をもって人と出会って生きていかれました。そこでその生涯において、イエスの体に触れた人たち、あるいは触れていただいた人たちの中から3人のことを思い浮かべてみます。

まず最初は12歳の少女です。会堂長ヤイロの娘。「タリタ・クム」(少女よ、起きなさい)。こう呼びかけられて、手を取って起こされた女の子です(マルコ 5:41)。もう呼吸は止まり、心臓の鼓動も停止して、次第冷たくなっていく少女の手をイエスの手が握られた。イエスが手を取って起こされたとき、イエスの体の熱は少女に伝わり、少女は息を取り戻し、心臓は脈打ちはじめました。体は体温を取り戻しました。

この少女とは、わたしのことかもしれません。わたしの手をイエスが取って起こしてくださる。わたしは新しく生きはじめます。

イエスの体に触れた人。2番目は弟子のペテロです。イエスが最後の食事を弟子たちとともにされた木曜日の夕方、イエスの手は弟子たちの汚れた足を洗われました。ペテロはそのとき言いました。

「わたしの足など、決して洗わないでください」ヨハネ 13:8

それに対してイエスは言われました。

「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」 13:8

冷たい水と温かいイエスの手によって、ペテロは清められました。

そのときペテロはまだ、自分が清められなくてはならない者であるとは、おそらく知らなかった。謙遜の陰に^{おご}傲りが隠れていたかもしれません。けれどもイエスの手はペテロの足に触れて、イエスの心はペテロの心に触れて、これまでのペテロの過ちだけではなく、将来の罪まで赦し清めてくださったのです。

肉となった方は、わたしたちに赦しの恵みを注がれます。

イエスの体に触れた3番目は、マグダラのマリアです。イエスが十字架につけられて3日目の日曜日の朝早く、彼女はイエスの墓に行きました。天使が現れ、主の復活を告げます。仲間の弟子たちのところに急ぐ彼女を、イエスが立って待っておられて、「おはよう！」と声をかけられました。彼女はイエスの足を抱いて拝みました（マタイ 28:9）。復活のイエスはつかみどころのない存在ではなく、体を持った確かな生きた存在なのです。

イエスの体に触れた人を何人かたどってみました。12歳の少女、弟子のペテロ、そしてマグダラのマリア。肉となられたか

からこそ、この方は人と深く出会って、人を生かし赦し励ますことができるのです。

肉となられた方は、心と体をもって人々に出会われました。ただ過去にそのような人たちがいたというだけではなく、わたしたちも、心と体をもったイエスに、わたしたちの心と体をもって出会うことを許されているのです。

聖餐のパンはイエスの体です。

祈ります。

主イエスさま、あなたは心と体をもってわたしたちに出会うために肉となってわたしたちの間に宿られました。どうかあなたにはっきりと出会わせてください。とりわけ悩みのあるとき、重荷を負って苦勞しているときに、出会わせてください。わたしたちに命を与えるために肉となられたあなたのみ名をほめたえします。アーメン